



## 目次

- [1. とやま総合診療専門研修プログラムについて](#)
- [2. 総合診療専門研修はどのようにおこなわれるのか](#)
- [3. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方](#)
- [4. 専攻医の受け入れ数について](#)
- [5. 施設群における専門研修コースについて](#)
- [6. 専門研修の評価について](#)
- [7. 修了判定について](#)
- [8. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと](#)
- [9. Subspecialty 領域との連続性について](#)
- [10. 専攻医の採用](#)
- [11. 見学・問い合わせなど](#)

# 1. とやま総合診療専攻研修プログラムについて

本研修プログラムは、日本専門医機構認定総合診療専攻研修プログラムです。<https://jbgm.org/>大学のプログラムでありながら、10の出身大学・6の出身研修プログラム、他科からの転向者もいる、多様な背景があるメンバーがいる事が特徴です。総合診療研修が開始する前から、家庭医療専門研修を行っており、教育の実績があります。



## とやまキャリア形成プログラム

卒後年数	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12~
研修内容	総合診療研修			家庭医療研修						
	<b>内科</b> 厚生連高岡病院 富山大学附属病院 南砺市民病院 新潟県立中央病院 など  <b>選択</b> 富山大学附属病院 など	<b>総合診療・家庭医療II</b> (病院総合診療) かみいち総合病院 南砺市民病院 新潟県立中央病院 など	<b>総合診療・家庭医療I</b> (診療所・中小病院) かみいち総合病院 南砺家庭・地域医療センター ごちやまるクリニック など  <b>小児・救急</b> 厚生連高岡病院 富山大学附属病院 砺波総合病院 など	<b>家庭医療I</b> (診療所・中小病院) かみいち総合病院 南砺家庭・地域医療センター あさひ総合病院 飛騨市民病院 など	<b>在宅fellowship</b> 富山市まちなか診療所 ものがたり診療所  <b>緩和fellowship</b> 富山県立中央病院  <b>北信越HANDS faculty development</b>  <b>地域医療キャリア</b> <b>大学病院キャリア</b> 臨床・教育・研究 <b>開業・留学など</b>					

大学院（医学教育・臨床疫学など）で学びを深めたい方はどのタイミングからでも開始可能です

内科・救急ダブルボード研修も可能です。内科は内科サブスペ領域との連動研修を行うことができます  
その他、さまざまなキャリア形成を支援します（離島に行きたい や 他の学部に進みたい など実績あり）

## 2. 総合診療専門研修はどのようにおこなわれるのか

基幹施設である富山大学附属病院には総合診療科があり、アカデミックマインドを持った多くの指導医がおり、連携施設の指導医と十分な協力体制をとっています。各施設での on the job training を基本としつつ、毎月専攻医主導でポートフォリオ勉強会を実施し総合診療の基本について学んでいます。また、研修手帳の会や臨床研究の勉強会も開催しています。

### 3. 施設群による研修 PG および地域医療についての考え

本研修 PG では富山大学附属病院総合診療科を基幹施設とし、地域の連携施設とともに施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります（基幹施設では6ヶ月の研修が必須となります）

総合診療 I	<p>南砺家庭・地域医療センター</p> <p>あさひ総合病院</p> <p>飛騨市民病院</p> <p>かみいち総合病院</p> <p>JCHO 高岡ふしき病院</p> <p>能生国保診療所</p> <p>上平診療所</p> <p>利賀診療所</p> <p>平診療所</p> <p>ごちやまるクリニック</p>	総合診療 II	<p>南砺市民病院</p> <p>射水市民病院</p> <p>済生会富山病院</p> <p>富山労災病院</p> <p>糸魚川総合病院</p> <p>かみいち総合病院</p> <p>厚生連高岡病院</p> <p>新潟県立中央病院</p>
内科	<p>富山大学附属病院</p> <p>かみいち総合病院</p> <p>糸魚川総合病院</p> <p>富山労災病院</p> <p>済生会富山病院</p> <p>射水市民病院</p> <p>南砺市民病院</p> <p>JCHO 高岡ふしき病院</p> <p>黒部市民病院</p> <p>厚生連高岡病院</p> <p>新潟県立中央病院</p>	小児科	<p>砺波総合病院</p> <p>高岡ふしき病院</p> <p>富山大学附属病院</p> <p>富山県立中央病院</p> <p>糸魚川総合病院</p> <p>厚生連高岡病院</p> <p>新潟県立中央病院</p>
救急	<p>富山大学附属病院</p> <p>富山県立中央病院</p> <p>砺波総合病院</p> <p>糸魚川総合病院</p> <p>厚生連高岡病院</p> <p>新潟県立中央病院</p>	その他	<p>富山大学附属病院</p> <p>富山市まちなか診療所</p> <p>ものがたり診療所</p>

#### 4. 専攻医の受け入れ数について

各年 10 名

## 5. 施設群における専門研修コースについて

本研修 PGの施設群による研修コース例を示します。富山大学附属病院は基幹病院として、専攻医の教育や研修ツールの提供を行います。以下にコース例を示します。

(総合診療Ⅰ = 総Ⅰ 総合診療Ⅱ = 総Ⅱ 家庭医療Ⅰ = 家Ⅰ と表記)

年次	前半	後半
1	厚生連高岡病院 (内科)	厚生連高岡病院 (総Ⅱ)
2	厚生連高岡病院 (小児・救急)	富山大学附属病院 (その他)
3	かみいち総合病院 (総Ⅱ)	かみいち総合病院 (総Ⅰ)
4	あさひ総合病院 (家Ⅰ)	

年次	前半	後半
1	かみいち総合病院 (総Ⅰ)	かみいち総合病院 (総Ⅱ)
2	富山大学附属病院 (その他)	厚生連高岡病院 (小児・救急)
3	厚生連高岡病院 (内科)	厚生連高岡病院 (総Ⅱ)
4	ごちゃまるクリニック (家Ⅰ)	

年次	前半	後半
1	南砺市民病院 (内科)	南砺市民病院 (総Ⅱ)
2	南砺市民病院 (総Ⅱ)	南砺家庭・地域医療センター (総Ⅰ)
3	砺波総合病院 (小児・救急)	富山大学附属病院 (その他)
4	あさひ総合病院 (家Ⅰ)	

年次	前半	後半
1	南砺市民病院 (内科)	南砺市民病院 (総Ⅱ)
2	南砺家庭・地域医療センター (総Ⅰ)	南砺市民病院 (総Ⅱ)
3	富山大学附属病院 (その他)	砺波総合病院 (小児・救急)
4	飛騨市民病院 (家Ⅰ)	

## 6. 専門研修の評価について

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修 PG の根幹となるものです。

以下に、「振り返り」、「経験省察研修録作成」、「研修目標と自己評価」の三点を説明します。

### 1) 振り返り

多科ローテーションが必要な総合診療専門研修においては3年間を通じて専攻医の研修状況の進捗を切れ目なく継続的に把握するシステムが重要です。具体的には、研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを1～数ヶ月おきに定期的に行います。その際に、日時と振り返りの主要内容について記録を残します。また、年次の最後には、1年の振り返りを行い、指導医からの形式的な評価を研修手帳に記録します。

### 2) 経験省察研修録作成

常に到達目標を見据えた研修を促すため、経験省察研修録（学習者がある領域に関して最良の学びを得たり、最高の能力を発揮できた症例・事例に関する経験と省察の記録）作成の支援を通じた指導を行ったりします。専攻医には詳細20事例、簡易20事例の経験省察研修録を作成することが求められますので、指導医は定期的な研修の振り返りの際に、経験省察研修録作成状況を確認し適切な指導を提供します。また、施設内外にて作成した経験省察研修録の発表会を行います。

なお、経験省察研修録の該当領域については研修目標にある7つの資質・能力に基づいて設定しており、詳細は研修手帳にあります。

### 3) 研修目標と自己評価

専攻医には研修目標の各項目の達成段階について、研修手帳を用いて自己評価を行うことが求められます。指導医は、定期的な研修の振り返りの際に、研修目標の達成段階を確認し適切な指導を提供します。また、年次の最後には、進捗状況に関する総括的な確認を行い、現状と課題に関するコメントを記録します。

また、上記の三点以外にも、実際の業務に基づいた評価（Workplace-based assessment）として、短縮版臨床評価テスト（Mini-CEX）等を利用した診療場面の直接観察やケースに基づくディスカッション

（Case-based discussion）を定期的に行います。また、多職種による360度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施します。

更に、年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施します。

最後に、ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築します。メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証しています。

### 【内科ローテート研修中の評価】

内科ローテート研修においては、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム（Web版研修手帳）による登録と評価を行います。これは期間は短くとも研修の質をできる限り内科専攻医と同じようにすることが総合診療専攻医と内科指導医双方にとって運用しやすいからです。

6ヶ月間の内科研修の中で、最低20例を目安として入院症例を受け持ち、その入院症例（主病名、主担当医）のうち、提出病歴要約として5件を登録します。分野別（消化器、循環器、呼吸器など）の登録数に所定の制約はありませんが、可能な限り幅広い異なる分野からの症例登録を推奨します。病歴要約については、同一症例、同一疾患の登録は避けてください。

提出された病歴要約の評価は、所定の評価方法により内科の担当指導医が行いますが、内科領域のようにプログラム外の査読者による病歴評価は行いません。

6ヶ月の内科研修終了時には、病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価（多職種評価含む）の評価結果が専攻医登録・評価システムによりまとめられます。その評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告されることとなります。

専攻医とプログラム統括責任者がその報告に基づいて、研修手帳の研修目標の達成段階を確認した上で、プログラム統括責任者がプログラム全体の評価制度に統合します。

#### 【小児科及び救急科ローテート研修中の評価】

小児科及び救急科のローテート研修においては、基本的に総合診療専門研修の研修手帳を活用しながら各診療科で遭遇する common disease をできるかぎり多く経験し、各診療科の指導医からの指導を受けます。

3ヶ月の小児科及び救急科の研修終了時には、各科の研修内容に関連した評価を各科の指導医が実施し、総合診療プログラムの統括責任者に報告することとなります。

専攻医とプログラム統括責任者がその報告に基づいて、研修手帳の研修目標の達成段階を確認した上で、プログラム統括責任者がプログラム全体の評価制度に統合します。

#### 【指導医のフィードバック法の学習(FD)】

指導医は、経験省察研修録、短縮版臨床評価テスト、ケースに基づくディスカッション及び360度評価などの各種評価法を用いたフィードバック方法について、指導医資格の取得に際して受講を義務づけている特任指導医講習会や医学教育のテキストを用いて学習を深めていきます。



## 7. 修了判定について

3年間の研修期間における研修記録にもとづいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の総合診療科研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年の5月末までに専門研修 PG 統括責任者または専門研修連携施設担当者が専門研修 PG 管理委員会において評価し、専門研修 PG 統括責任者が修了の判定をします。

その際、具体的には以下の4つの基準が評価されます。

- (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修ⅠおよびⅡ各6ヶ月以上・合計18ヶ月以上、内科研修12ヶ月以上、小児科研修3ヶ月以上、救急科研修3ヶ月以上を行っていること。
- (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達していること
- (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達していること
- (4) 研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による360度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する。

## 8. 専攻医が専門研修 PG の修了に向けて行うべきこと

専攻医は研修手帳及び経験省察研修録を専門医認定申請年の4月末までに専門研修 PG 管理委員会に送付してください。専門研修 PG 管理委員会は5月末までに修了判定を行い、6月初めに研修修了証明書を専攻医に送付します。専攻医は日本専門医機構の総合診療科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

## 9. Subspecialty 領域との連続性について

当プログラムでは、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門研修と連動しています。

<https://www.shin-kateiiryō.primary-care.or.jp/>

総合診療研修に加え、家庭医療研修 I を 12 ヶ月経験いただくことで、修了いただけます。

家庭医療 I 研修（12 ヶ月）

かみいち総合病院

南砺家庭・地域医療センター

あさひ総合病院

飛騨市民病院

利賀診療所

平診療所

上平診療所

ごちゃまるクリニック

なお、他プログラムで総合診療研修を修了された方は 2 年間の家庭医療専門研修となります。（家庭医療 I 18 ヶ月 家庭医療 II 6 ヶ月）

在宅医療研修として在宅医療連合学会認定「ものがたり在宅医療フェロシップ」に参画をしています。

<https://www.jahcm.org/>

認定施設で 1 年間研修し、修了いただけます。詳細はこちらのホームページをご覧ください（CIGM）

研修施設

ものがたり診療所

富山市まちなか診療所

オレンジホームケアクリニック

ココロまち診療所

函館稜北病院

大学院に進学（臨床疫学、医学教育など）、海外留学、緩和ケア専門医研修、各医療機関でのスタッフとして活躍など専攻医の意向に沿って相談に乗っていきます。内科、救急などのダブルボードも可能です。

## 10.専攻医の採用

### 【採用方法】

とやま総合診療専門研修 PG 管理委員会は、毎年 6 月から説明会等を行い、総合診療科専攻医を募集します。原則として 11 月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果についてはとやま総合診療専門研修 PG 管理委員会において報告します。

## 11.見学・問い合わせなど

当プログラムへの見学・問い合わせ希望などありましたら、ホームページ（<https://tomgeli.com/>）問い合わせフォームよりお願いします。各研修施設に直接連絡を取られても構いません。

以上